

中学生が沼にはまる本気のSDGs

－ 総合的な学習 50時間の挑戦－

神崎 友子（京都教育大学附属桃山中学校）

1. はじめに

本校の総合的な学習（年間50時間）で、SDGsをテーマにしたコース（1～3年生16人）の11月中旬（最終1月）までの探究活動について発表する。SDGsといっても、どんなことができるか、初めて取り組む生徒には想像がつかない。そこで新聞を活用し、17の目標とつながる記事をスクラップし、ヒントを得た。ゴールとして「こんなことがわかった」だけでなく、「どんな行動をして、何をどう変えたいか」を明らかにした上で活動を始めた。以下、コース内の2グループの活動の概要と、そこから見えてきた「探究活動における新聞活用の有効性」と「生徒がSDGsに取り組む意義」について述べる。

2. 生徒の活動

テーマ設定のきっかけとなった新聞記事については、発表時に紹介する。

グループAでは「子育てしやすい環境づくり」をテーマに、[3：すべての人に健康と福祉を、11：住み続けられるまちづくりを]について、「子育てに悩んでいる人達のお手伝いをする」ことにした。初めはスマホで「相談アプリ」を作ろうとしていたが、難しいことがわかり断念。次に「顔の見える人」とかかわろうと、隣の附属幼稚園に行き、子どもを送迎する保護者に「子育てアンケート」を依頼する。そして沢山の方に書いていただいたアンケートを整理し、子育てのお悩みを解決するのに、本校でお世話になっている保健師さんにインタビューしたり、関係機関に出向くなどして、保護者の声に向き合い、最適解を導いていく。「お悩み」は多岐にわたり、それぞれに何ができるか考え、行動していく姿は、学習指導要領にも示されている「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力」や「学びに向かう力」につながるだろう。現在は幼稚園の保護者に配布する「子育てパンフレット」を作成中である。

グループBでは「世界の人々に豊かな暮らしを」をテーマに、[1：貧困をなくそう、2：飢餓をなくそう、4：質の高い教育を、12：つくる責任つかう責任]について「みんなが平等な世界」を願い、色々なアクションを起こした。例えば、初めは募金活動をしようとしていたが、「自分達が裕福であることを強調してしまうのではないか」という意見から、ボランティア活動を通して飢餓で苦しんでいる子どもを支援しようと、校内バザーを実施した。先生方から理解を得る、生徒や保護者への依頼、品物集め、値段つけ、陳列、販売、ユニセフとの交流、余った品物をどうするかなど、その都度話し合い、色々な人に交渉し、支援を求めた。このようなプロセスは生徒の社会的なキャリアを形成することにもなる。今後は同区内の子ども食堂への訪問を予定している。また、バザーの案内や収益の報告など、随時ポスターを校内に掲示し、情報発信したことで、その反響も大きかった。

3. まとめ

次の(1)(2)が現段階での成果である。課題については、発表時に示す。

(1) 「探究活動における新聞活用の有効性」について

- ・社会について考えたり、行動したりする時、その入り口として新聞の活用が効果的である。
- ・社会で生きる人とかかわったり、社会的な問題について解決しようとする社会参画もNIEである。（学んだことを発信することも含む）
- ・学んだことの伝え方として、紙であれ、電子媒体であれ、「どんな相手に」「どんな目的で」「何を中心に」伝えるか、新聞の情報発信のスキルが基本となる。

(2) 「生徒がSDGsに取り組む意義」について

- ・生徒が社会の問題を自分事として引き寄せ、身に付けた個々の知識や技能を駆動させ、課題解決しようとする。
- ・リアルな状況の中で、試行錯誤しながら協働的に最適解を生み出していく。
- ・社会で生きる人達とのかかわりなどから、自らの生き方を考え、実現していくというキャリアの形成。